

# 桜峰校区コミュニティプラン

## 第2期(R4~R8)

桜峰校区コミュニティ協議会

令和4年 3月

## 目 次

第1章	桜峰校区コミュニティ協議会	3
1	コミュニティ協議会の設立	
2	コミュニティ協議会の目的	
2	コミュニティ協議会のスローガン」	4
4	コミュニティ協議会の運営方針	5
5	コミュニティ協議会の組織	6
第2章	桜峰校区コミュニティプランの策定	7
1	策定の趣旨	
2	計画の期間	
3	計画の推進及び改定	
第3章	桜峰校区の概要	8
1	桜峰校区の概要	
2	人口構造	
3	児童・生徒数	
4	文化財等	9
第4章	桜峰校区の課題	10
1	校区民同士の自助・共助	
2	コミュニティの存続	
3	校区資源の活用	
4	団体間の連携	11
5	噴火など自然災害対策	
6	日常の安心安全の確保	

7 コミュニティビジネスの推進

第5章 第2期コミュニティプラン策定の考え方・・・・・・・・ 12

第6章 桜峰校区コミュニティプラン（第1期）の検証・・ 13

第7章 桜峰校区コミュニティプラン（第2期）・・・・・・・・ 18

## 第1章 桜峰校区コミュニティ協議会

### 1 コミュニティ協議会の設立

市は、平成23年3月に、地域コミュニティの将来像や、その実現に向けた取組みの基本的な方向性を示す指針として、鹿児島市コミュニティビジョンを策定し、同ビジョンを推進する中心的な取組として、地域コミュニティ協議会を市内全域に設立していくこととしました。

これを受け、私たちは、平成27年10月25日市内で18番目の『桜峰校区コミュニティ協議会』を発足しました。

校区コミュニティ協議会は、校区内で活動している各種団体がそれぞれの機能と役割を生かしながら、小学校区を単位に連携し、校区課題の解決や校区資源の活用など、校区主体のまちづくりに取り組む組織です。

### 2 コミュニティ協議会の目的

私たちの生活は、社会インフラの向上により行動範囲が広がったり、女性の社会進出を応援する流れに乗って共働き家庭が増えるなど、暮らし方がグローバル化したことによって、隣り近所と共同して生活することや、助け合って生活する場面が少なくなると同時に、プライベートを重視する風潮から、地域内でのお付き合いが衰退し、コミュニケーションの必要性が低下してきていることも事実であります。

しかしながら、校区では、高齢化の進行による町内会組織の維持が不安視され、活火山の桜島の噴火等の自然災害時の避難等を含めた安全対策、高齢者等の生活利便性の確保が急を要する課題であります。

このようなことから、本校区の将来においては、非常に厳しい現実が予想されており、個人で解決することが困難な課題が一層増加してくると思われま

近年、プライベートを重視する流れはありましたが、ここに来て、地域で互いに協力し、助け合う組織づくりがあらためて急務となっています。

地域においては、町内会・あいご会・学校、PTA 組織、福祉関連団体等、様々な団体がそれぞれに目的をもち活発に活動していますが、今後は、将来の校区の課題を解決しながら、コミュニティ活動を維持するために、これらの団体、組織が連帯して情報を共有し、先手を打って研究し、行動していくことが必要であるとの思いから、校区コミュニティ協議会を設立しました。

### 3 コミュニティ協議会の「スローガン」

**私たちは 助け合い 安心して暮らす**

**そしてつないでいく おうほうびと 桜峰人をめざします**

[スローガンに込められた意味]

**わたしたちは**

校区に住む全住民と出身者及び想いのある人など、桜峰校区に関わる全ての人を想定しています

**助け合い**

町内会を中心としたこれまでの集落単位を基礎として、民生委員、消防団など支援力のある組織の活躍や隣近所、異年齢による個々の助け合いによって住み良い校区にしたいとの願いがあります

**安心して暮らす**

桜島という活火山が大噴火した時に「ひとりの犠牲者も出さない」を最終使命とする地域での防災に対する準備と平時におけるあらゆる危険、不安を全校区民で和らげることによって安心できる校区をめざします

**そしてつないでいく**

少子高齢化による人口減は、町内会や校区の衰退に直結します。将来を展望する時の最大の課題は、この校区を存続させ続けることです

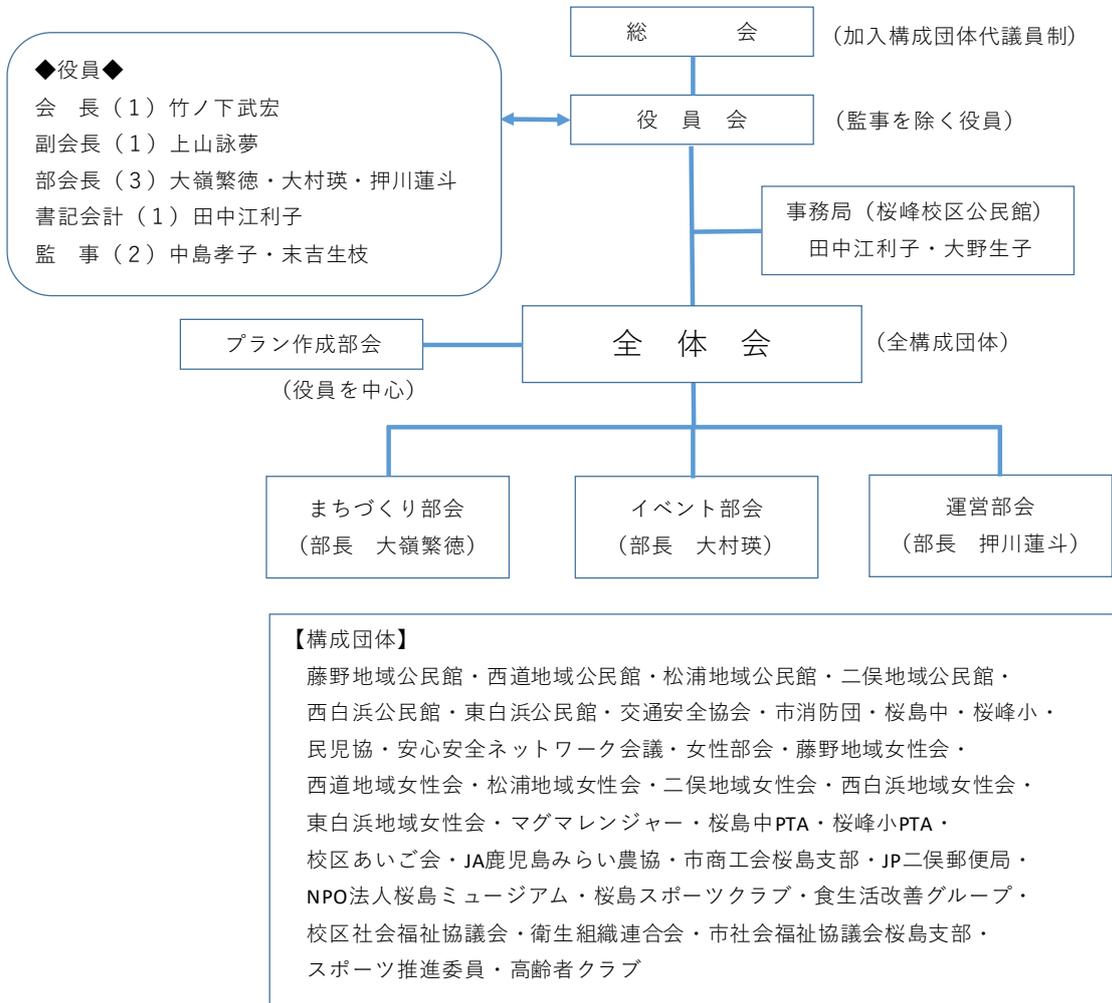
**桜峰人をめざします**

桜峰校区に関係する「ひと」として、誇りをもって生活し、「校区を助ける人になりたい」そんな頼れる人を桜峰人と呼びたい思いです

#### 4 コミュニティ協議会の運営方針

- 1 校区住民みんなが主役となり、お互い支え合いながら、住みやすい校区づくりを進める。(校区民同士の自助・共助)
- 2 校区住民が現状を共通認識し、将来に関心を持ち、校区が存続し続けるように努める。(コミュニティの存続)
- 3 校区の人や物、歴史などを特有の資源として、校区づくりに活用する。(校区資源の活用)
- 4 協議会を組織する団体間の連携や協働により、部会を中心として課題解決のスピード化と充実化を図る。(団体間の連携と共助)
- 5 桜島の噴火・爆発時における避難活動の対応策を検討する。(噴火など自然災害対策)
- 6 高齢化した校区の日常の安全、安心な生活を維持する方策に取り組む。(日常の安心安全の確保)
- 7 校区内の課題を自ら解決するために、5地域コミュのティ協議会を発起団体とする NPO 法人の設立に取り組む。(コミュニティビジネスの推進)

## 5 コミュニティ協議会の組織(令和4年3月現在)



## 第2章 桜峰校区コミュニティプランの策定

### 1 コミュニティプラン策定の趣旨

校区コミュニティプランとは、「ありのままの校区社会ではなく、こうありたいという校区社会を創る」ことであり、校区民の願望が含まれているものです。

また、あるべき校区コミュニティは、「お互いに助け、助けられながら安心して暮らせる校区社会」であり、住民がこうあってほしいと校区社会をイメージ(心の中に思い浮かべる像)し、安心を第一に夢や希望があること、さらに、「我が校区は一つなり」との心の結集があり、校区住民自らの力で校区づくりを推進する組織です。

そのために、校区の将来像(目標)や方向性を決めて、具体的な計画を策定したものが、今回策定した「第2期(R4～R8)桜峰校区コミュニティプラン」です。

また、桜島島内には5つのコミュニティ協議会があり、これまで連絡会等を通じて各協議会の課題は類似していることが確認されていることから、合同で取り組む事業も今回のコミュニティプランに盛り込まれています。

### 2 計画の期間

第2期は、令和4年4月から令和9年3月までの5か年のプランです。

### 3 計画の推進及び改定

毎年度、コミュニティ計画の進行状況を確認し、必要がある場合は期間中に見直しを行います。

## 第3章 桜峰校区の概要

### 1 桜峰校区の概要

桜峰校区は、令和4年1月1日現在の推計人口(実際に居住していると想定される数)で、571世帯、人口は1,041人で、新島を含む7の集落で形成されています。

### 2 人口構造(令和4年1月現在 住基人口)

	総人口	19歳以下		20歳～64歳		65歳～74歳		75歳以上	
		人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合
桜島藤野町	348	40	12%	140	40%	58	17%	109	31%
桜島西道町	157	12	8%	59	37%	36	23%	50	32%
桜島松浦町	137	2	1%	42	31%	33	24%	60	44%
桜島二俣町	125	7	6%	55	44%	24	19%	39	31%
桜島白浜町	355	9	3%	115	32%	105	30%	126	35%
新島町	2	0	0%	1	50%	1	50%	0	0%
<b>校区合計</b>	<b>1,123</b>	<b>70</b>	<b>6%</b>	<b>412</b>	<b>37%</b>	<b>257</b>	<b>23%</b>	<b>384</b>	<b>34%</b>

### 3 児童・生徒数(令和4年1月現在)

- ・桜峰幼稚園(10人)
- ・桜峰小学校(23人)
- ・桜島中学校(45人)

### 3 文化財等 ～守り伝える先人の尊い足跡～

分類	資料名	所在地	指定年月日等
天然記念物	アコウ群	桜島藤野町	平成 22 年
記念物	島津義弘公蟄居跡	桜島藤野町 354	平成 17 年 3 月 31 日
有形民俗文化財	藤野の庚申塔	桜島藤野町 31-3	平成 17 年 3 月 31 日
天然記念物	藤崎家の大楊梅	桜島藤野町 855	平成 17 年 3 月 31 日
史跡	藤崎家の屋敷門	桜島藤野町 854	
記念物	中坊の五輪塔群	桜島西道町	昭和 57 年 8 月発掘
記念物	逆修五輪塔宝塔群	桜島西道町	昭和 4 年発見
記念物	鹿児島忠吉の宝塔	桜島西道町	
記念物	水神	桜島西道町	
記念物	西道の宝篋印塔	桜島西道町	
有形民俗文化財	如意輪観音像	桜島西道町	
有形民俗文化材	笠塔婆	桜島西道町	
記念物	二俣の五輪塔	桜島二俣町	昭和 59 年発見
記念物	白浜の石畳道	桜島白浜町	
記念物	無縫塔	桜島白浜町	安永 9 年(1780)建立

## 第4章 桜峰校区の課題

### 1 校区民同士の自助・共助

- ① ひとり暮らし高齢者世帯の増加や共働き家庭が増えるなど、世帯の形状や暮らし方が変化したことにより、これまで以上に高齢者等の見守り活動が必要。
- ② 少子高齢化により地域行事が開催できない状況からコミュニケーションを交わす機会が少なくなった。
- ③ 高齢世帯が増えたことにより、周囲の人たちが協力して助け合う「支援力」が低下している。

### 2 コミュニティの存続

- ① 高齢化の進行や人口減により、役員のなり手不足や会費収入の減により、町内会組織の現状維持が不安視される。
- ② 若年層が極端に少なく、帰郷する人も望めないことから人口減少は更に進む。
- ③ 伝統行事がなくなってきている。

### 3 校区資源の活用

- ① 空き家・空き地と休耕地が増える一方で、大切な資源ではあるが、所有する厄介物となっており、地域の治安上も課題となっている。
- ② 松浦棒踊りは住民の高齢化や減少によって、保存が困難となっている。
- ③ 御嶽龍王権現神社の維持管理が課題である。
- ④ 高齢化しているが、住民が何よりの資源であり、「人」をもって地域を維持する必要がある。
- ⑤ 小中一貫教育学校の開校後の廃校舎・校庭の活用の検討が必要である。

## 4 団体間の連携

- ① 町内会、あいご会、学校、PTA、福祉関連団体等、様々な団体がそれぞれ目的をもち活動しているが、会員数の減少している団体は、コミュ協を核とした統合しての活動も必要となる。
- ② 高齢化社会といいながら、コミュニティ協議会の構成団体に昔の高齢者クラブ等がないので、高齢者の組織づくりを支援するとともに、民児協、校区社協等と連携し、高齢者等の見守り活動など地域福祉を推進する必要がある。
- ③ 桜島島内のコミュニティ協議会との連携を更に図る必要がある。

## 5 噴火など自然災害対策

- ① 活火山の桜島を抱える校区として、大規模噴火時の町内会毎の避難体制の確立が必要である。

## 6 日常の安心安全の確保

- ① 運転免許証を返納した高齢者を含め、市営バス頼りから、新たな移動手段の創設が必要である。
- ② 商店や病院などの地域生活インフラが無い、もしくは極度に不足している中で移動手段を持たない人たちの買い物や食事の確保が課題である。

## 7 コミュニティビジネスの推進

- ① 行政に頼らずに地域内の課題を解決するために、経済性を伴った事業実施が必要であることから、地域に根差したNPO法人の設立が必要となってくる。

## 第5章 第2期コミュニティプラン策定の考え方

平成27年に第1期コミュニティプラン35項目を策定し、実施に向けて取り組んできましたが、令和元年からの新型コロナウイルス感染症の流行により、イベントや会議の中止等思うような成果が出せていない状況にあります。

またプランの推進を通して、活動には校区の課題を解決する事業と校区の親睦や活性化を目的とする事業に分類されることがわかりました。

校区の課題を解決する事業は、ボランティアだけでは成果が生まれにくく、持続性も維持できないことから、資金の確保を一体として経済活動と連動した取り組みが必要であると思われることから、桜島島内の5つのコミュニティ協議会と連携して地域コミュニティを支えるNPO法人を設立し、事業展開する準備を進めていきます。

コミュニティ協議会では校区の親睦や活性化を主とする事業を専門として活動の展開を進めていきます。

コミュニティ協議会とNPO法人との関係は、連携する団体としての位置づけで相互の経営や運営上のつながりは直接的にはないものとしませんが、理想は、コミュニティ協議会で校区の課題と住民のニーズを拾い出し、NPO法人が解決するために事業として取り組む関係性です。

このような考えのもと、第1期のプランを検証した上で、第2期コミュニティプランを策定しました。

## 第6章

# 桜峰校区コミュニティプラン

## 第1期の検証

「分類」欄の

『事業』はイベント系の活動／『企画』は課題解決系の活動／『NPO』は将来NPO事業化をめざすもの

◆基本方針 私たちは助け合い安心して暮らす そしてつないでいく桜峰人をめざします

第6章 桜峰校区コミュニティプラン（第1期）の検証

項目番号	事業名	具体的な事業内容 (策定当初の計画内容)	5年間の実績	評価 A成果確実 B継続取組 C未実施	2期に向けて基本的な考え方	継続 拡充 廃止	分類
1	校区一斉清掃	各公民館で実施している早朝清掃活動を校区一斉清掃活動として、8月、11月、2月を基準に年3回取り組む	年末一斉清掃として、ランニング桜島大会の早朝校区（桜洲校区も合わせて）一斉清掃を実施した。	A	ランニング桜島が開催される日に合わせて実施する	継続	事業
2	高齢世帯年越しそばの提供事業	調理室を利用して、女性学級のそば打ち講座の協力により、高齢者世帯への年越しそばのサービスを行う	個別配達には衛生面で課題があるので実施不可能。品目を餅に変える案があったが、衛生面で実施せず。事務局が味噌を作って、少量ではあったが窓口販売したことが好評。	B	調理室を活用しての食品販売等は検討しない。別事業として、高齢者等への配食サービスを検討する。	廃止	NPO
3	近所声掛け運動の実践	概ね75歳以上の高齢者のみ世帯に近隣の人が定期的な声掛けを実施することによる高齢者の安全確保を図るシステム作りを進める	コミュ協でも「ともしび会」の組織と活動状況の情報を共有し、他の団体や施策との連携を検討したが、実行できず。	C	市防災訓練で取り組んだ、町内会・民生委員・消防団の調整会議の実用化に向けて積極的に関わる	継続	企画
4	校区敬老会の必要性の検討	各公民館で毎年実施している敬老会行事について、校区での開催が必要かどうかについて検討する	—	C	継続して検討課題とする	継続	事業
5	校区七草祝いの実施	校区内の七草対象児に呼びかけ、神社で合同七草祝いを開催する	1月7日に毎年対象者に呼びかけて実施した。	A	継続する。	継続	事業
6	校区運動会の創設	桜峰小学校の運動会に校区が加わり、桜峰校区運動会として実施する	第1回校区・小学校合同運動会が実施できた。コミュ協種目を5種目とし、景品の提供も行った。	A	小学校、幼稚園と校区民が参加した合同運動会を継続する。さらに、学校統合（R8年度）を見据えた全島小学校等の合同運動会も時期を見て実施する。	拡充	企画
7	校区伝統芸能の継承と伝統行事の創設	松浦地域の鎌踊りの継承及び各公民館で実施していた伝統行事の復活や新たな伝統となる行事等の創設に取り組む	将来的に松浦権現神社の祭事に合わせて鎌踊りを奉納する目標を立てたが実施できず。	C	校区に鎌踊り保存会を創設する方法を引き続き、具体的に検討する。	継続	企画
8	校区公民館の調理室等の施設活用	調理室やボイラー施設といった特色ある校区公民館の施設の利用者の増に取り組み、併せて定期的にフリーマーケットなど、校区民が集まるイベントを開催する	コミュ協講座として、麺つゆ、ふくれ菓子、みそづくりを実施した。	A	これまでの参加者を中心に年間通して、講座を開設し、次代の利用者、指導者を育成する。	継続	事業
9	人材バンク登録名簿作成	さまざまな技術や知識、資格を持つ人の情報収集に努め、学習講座のリーダーや活動ボランティアの名簿を作成する	本人申請、町内会長経験者からの情報提供をもらっての予備台帳整備を計画したが、収集手段が確立されず未実施。	C	コミュ協での名簿作成は行わない。NPO法人の活動の中で、必要とする人材の確保を進めていくことでリスト作成につなげる。	廃止	NPO

「分類」欄の

『事業』はイベント系の活動／『企画』は課題解決系の活動／『NPO』は将来NPO事業化をめざすもの

◆基本方針 私たちは助け合い安心して暮らす そしてつないでいく桜峰人をめざします

第6章 桜峰校区コミュニティプラン（第1期）の検証

項目番号	事業名	具体的な事業内容 (策定当初の計画内容)	5年間の実績	評価 A成果確実 B継続取組 C未実施	2期に向けて基本的な考え方	継続 拡充 廃止	分類
10	指定文化財など校区資源の保存と活用	文化財などの伝承保存に関する理解を深めるとともに、子供世代への学習の場や人を呼び込む資源として活用するために、藤崎家の屋敷門、アコウ群の敷地等の保全に要する経費等について校区の対応のあり方を検討する	財産権が個人にあるのでコミュ協での経費負担は難しいと判断した。校区内の文化財マップを作成してフットパス等での活用案が出されたが、未実施。しかし、松浦権現神社の清掃活動及び管理を新たに取り組んだ。	A	御嶽龍王権現神社（松浦権現神社）をコミュ協が管理運営していく。	継続	企画
11	空き家等の調査	各公民館ごとの空き家情報を収集し、その活用や防犯上の対策に役立てる	町内会長の協力をもらって空き家マップを作成したが、活用までは至っていない。 また、空き家を活用したリノベーション研修会に参加した。	B	空き家の活用は重点事項である。 NPOの事業として進める。	継続	NPO
12	桜峰小学校学習発表会への参加	小学校の学習発表会に校区民が鑑賞参加するための広報活動を進め、これから取り組もうとする校区運動会同様、校区民も発表会の運営に参加する	学校との協議を進めなかった。	C	コミュ協での取り組みとしては、必要性が低いと思われるので取り組まない。	廃止	-
13	情報の共有化事業	コミュニティ協議会の構成団体の代表者が常時情報共有できるLINEや携帯メール等のグループ化を行い、緊急時の情報発信や定例的な連絡網として整備する	必要性が薄かったことから、取り組まなかった。	C	コミュ協のプランとしては、取り組まない。	廃止	-
14	シニアクラブ（仮称）の再結成	高齢化社会を反映して、高齢者層がコミュニティ活動に参画してもらうためにシニアクラブ等の再結成に取り組む	ゲートボール、グラウンドゴルフ、踊り、お達者クラブ、いきいきサロンに働きかける方針に基づき、東白浜に高齢者クラブが結成された。	B	可能性のある団体の調査を継続し、組織結成に向けて積極的に推進活動をする。	継続	企画
15	桜島爆発総合防災訓練への参加	市が実施する防災訓練に各公民館と連携しながら参加する方法を検討する	島内避難訓練や島外避難訓練に、組織として参加した。	C	防災訓練への参加に限っては、協力と支援は継続するが、コミュ協が中心となる必要性が低いことから、取り組まない。	廃止	-
16	災害時の避難誘導計画	高齢者や身体的な弱者の状況を把握し、災害時の避難誘導体制について、コミュニティ協議会、公民館、消防団が共同で研究し、各公民館毎に手立てを計画する	校区防災計画を作成したが、活用する場面やリニューアルする取り組みが薄かった。	A	第2期で校区防災計画をリニューアルする。	拡充	企画
17	火山に関する学習講演会の開催	桜島の噴火の歴史や現在の活動状態についての防災学習講座を開催する	鹿児島大学の岩船教授など防災に関する専門家や活動家の講演会ワークショップを開催した。	A	火山学習会は継続開催し、新たな参加者を増やす。	継続	事業

「分類」欄の

『事業』はイベント系の活動／『企画』は課題解決系の活動／『NPO』は将来NPO事業化をめざすもの

◆基本方針 私たちは助け合い安心して暮らす そしてつないでいく桜峰人をめざします

第6章 桜峰校区コミュニティプラン（第1期）の検証

項目番号	事業名	具体的な事業内容 (策定当初の計画内容)	5年間の実績	評価 A成果確実 B継続取組 C未実施	2期に向けて基本的な考え方	継続 拡充 廃止	分類
18	校区防犯パトロール隊の結成	校区に防犯パトロール組織を結成し、活動ジャンパー等のグッズを備え、活動に供する	コミュ協の構成員のメンバーでは活動が厳しかった。	C	コミュ協での取り組みの必要性が低いので、取り組まない。	廃止	-
19	防災対策コーナーの設置	校区公民館内の空き室（旧図書室）を利用して、噴火等災害時の避難マニュアルの設置と大型校区地図を掲示し、校区内の危険箇所等の検証を行う際の資料とする	市が作成している地域防災計画書やハザードマップ等は、図書室に設置したが、校区の大型地図等は設置していなし。	B	空き室の活用状況から、防災関連の資料等の掲示や設置は、プランとしては取り組まない。	廃止	-
20	小学生の登下校見守り活動の実施	特に小学生の登校時の安全確保をめざし、県道の危険箇所（二俣横断歩道）での見守り誘導を定期的に行う	小中学生の登下校の見守り活動を計画したが、民生委員やPTAで実施していることからコミュ協では実施しなかった。	C	コミュ協での取り組みの必要性が低いので、取り組まない。	廃止	-
21	校区危険箇所等の検証	年1回、校区の危険箇所等の現地調査を行い、安全な校区づくりを進める	校区防災計画に地域危険箇所マップを作成したり、夜間の危険か所や道路の安全点検などを行った。	B	必要に応じて、校区防災計画なかで盛り込んでいく。	廃止	-
22	市営バスの時刻表の研究と事業者への要望	アンケート結果でも群を抜いて要望の多かった市営バスのダイヤの不合理性について研究し、バス事業者への要望を行う	バス時刻の利便性の現状を調査し、市に対してフェリーとのダイヤ改正について要望書を提出した。	A	バスの時刻等については、住民からの声小さくなったことから、取組みを休止する。 近年の課題である高齢者等の移動手段不便の解消対策に力を入れる。	廃止	NPO
23	フェリーの車両航送料の助成制度の要望	アンケート結果でも多くの意見があった、フェリーの車両航送料に対する助成制度の復活や新たな助成サービスを要望する	新たな助成サービス等を含め、改善案についての要望書を市に提出した。 令和元年度からコミュ協で回数券の割賦販売を開始した。	A	フェリー回数券の割賦販売をさらに購入しやすい方法を検討しながら、取り組む。	継続	事業
24	成人学級の拡充	桜峰小学校おやじの会「マグマレンジャー」の活動を成人学級として講座を開催している。さらに、新たな個人、団体を対象とした成人学級の講座の開設をめざす	組織の結成には至らなかったが、運動会前に学校の校庭の草刈り等を実施した。	A	成人学級の講座実施等は、必要性が低いことと講座生の確保が困難なことから、重要度が低いと判断して積極的には取り組まない。	継続	事業
25	女性学級の充実発展	活動が充実してきている女性学級をさらに受講生拡大と講座の内容の充実をめざしながら講座を継続する	年間10回の自主活動を実施した。	A	会員を増やす検討を加えながら、継続する。	継続	事業
26	校区文化祭の開催	平成28年度に創設した校区文化祭を継続して開催する	継続して文化祭を開催した。	A	引き続き継続する。	継続	事業

「分類」欄の

『事業』はイベント系の活動／『企画』は課題解決系の活動／『NPO』は将来NPO事業化をめざすもの

◆基本方針 私たちは助け合い安心して暮らす そしてつないでいく桜峰人をめざします

第6章 桜峰校区コミュニティプラン（第1期）の検証

項目番号	事業名	具体的な事業内容 (策定当初の計画内容)	5年間の実績	評価 A成果確実 B継続取組 C未実施	2期に向けて基本的な考え方	継続 拡充 廃止	分類
27	桜島地域大運動会の開催	桜洲校区コミュニティ協議会と共同で開催している桜島地域大運動会を種目等を考えながら開催する	地域大運動会を桜島中学校の校庭で開催した。 中学校との合同運動会の開催に向けて準備はできた。	A	中学校との合同運動会として開催する。 また、学校統合を（R8年度）を見据え、全島の住民が参加する大運動会を開催する。	新規	企画
28	ふれあいグラウンドゴルフ大会の開催	桜洲校区コミュニティ協議会と合同で実施してきた高齢者を対象としたグラウンドゴルフ大会を参加チーム数の増加をめざしながら開催する	毎年、6月上旬に校区合同グラウンドゴルフ大会を開催した。	A	歴史のある事業なので継続する。 また、将来的には全コミュ協での合同開催も検討する。	継続	事業
29	スポーツ・レクリエーション大会の開催	小学生から高齢者まで幅広い世代の参加の中で開催しているスポーツレクリエーション大会を、競技数と参加者数の拡大をめざしながら継続して実施する	毎年、3種目に約60名の参加で実施した、	A	大会を開催したことで成果は十分にあったが、今後、全島での各種イベント等を開催する可能性があることから、事業の選択の中で今後は開催しない。	廃止	-
30	コミュニティ協議会の広報活動	各公民館の総会等でコミュニティ協議会の目的や活動内容等の宣伝をする	コミュニティ協議会の案内しおりを作成し、全戸の配布した。 また、回数券販売やワクチン接種サポート、学校統合などの活動を通して、コミュ協の存在を広報できた。	A	コミュ協の認知度が高まりつつあることから、事業としては取り組まない。 今後設立するNPO法人の広報活動は必要となる。	廃止	-
31	情報誌の発行	コミュニティ協議会の情報誌「桜峰校区コミュニティ通信」を月刊通信として発行する	コミュニティ通信の発行が滞った。	C	事務量から厳しい状況ではあるが、必要性を調査する意味からも当分は取り組む努力をする。	継続	事業
32	ホームページの運用	コミュニティ協議会のホームページを開設し、校区民が情報を取得できる環境と外部にも積極的に校区の紹介を行う	経費削減でインターネット契約を解約したことからホームページ作成は断念した。それに代わるフェイスブックの活用を導入したが活用はうまくできていない。	B	フェイスブックでの定期的、かつ充実した広報を行う。	継続	事業
33	健康教室の開催	校区公民館の大会議室を活用して、健康づくりを目的とした軽スポーツ教室を開催する	女性学級が講座の一つとして、校区公民館で健康教室を実施した。	A	必要性が低いと判断し、プランとしては取り組まない。	廃止	-
34	夏休みラジオ体操への参加	夏休み期間中、あいご会が実施しているラジオ体操に校区民も参加するための声掛け、広報を行う	町内会長を通じて、参加を呼びかけ、極一部の校区住民の参加があった。	A	必要性が低いと判断し、プランとしては取り組まない。	廃止	-
35	コミュニティビジネスの起業	NPO等と協働して校区内の資源を活用した校区民によるコミュニティビジネスの起業を検討する	フェリー回数券割賦販売やワクチン接種サポートなどコミュニティビジネスに近い挑戦はできた。	B	NPOを設立し、実現に向けて活動する。	新規	NPO

## 第7章

### 桜峰校区コミュニティプラン

#### 第2期（R4年～8年）

## ◆スローガン 私たちは助け合い安心して暮らす そしてつないでいく桜峰人をめざします

項目番号	事業名	取組み内容
1	ライドシェア事業	高齢者等の通院、買い物の交通手段として、地域住民同士の乗合タクシー事業など新たなシステムをNPOと共同して構築する
2	買い物サポート事業	高齢者等、交通移動手段の不便な人を対象に新たな買い物サポート事業をNPOと共同して構築する
3	空き家等の調査	各公民館ごとに調査した空き家情報を基礎として、新たな空き家情報の収集を継続し、空き家の家財処分を進め、持ち主から物件を賃借し、賃借等希望者へ又貸しする事業などに取組み、空き家活用、解消と防犯対策を進めるため、NPO法人と協働して取り組む。
4	高齢者IT力向上事業	情報通信機器の取扱いに慣れない高齢者等にスマートフォン等を使える「力」を付けさせて、設立するNPO等の各種サービスの利用を進める。
5	新設する小中一貫教育学校のプランへの提言	令和8年4月開校が予定されている新設の小中一貫型義務教育学校のあり方や構想についてコミュ協としての意見を提言する。
6	廃校舎・校庭の活用検討	新設義務教育学校の開校に伴う廃校舎や跡地の活用について検討する。また、災害時の避難所機能の確保や代替施設も視野に入れる。
7	コミュニティビジネスの起業	NPO等と協働して校区内の課題解決に向けたコミュニティビジネスの起業を検討する。また、活動資金の調達方法等を検討する。
8	御嶽龍王権現神社（松浦権現神社）の管理	松浦地域が中心となって、各公民館の協力を得ながら管理してきた御嶽龍王権現神社（松浦権現神社）を校区の貴重な資源として、コミュ協が中心となって引き続き管理する。
9	桜島地域大運動会の開催	当面は、中学校・桜洲校区コミュ協との合同運動会として開催する。 将来的には、学校統合を（R8年度）を見据え、全島の住民が参加する大運動会を開催する。
10	校区運動会の実施	桜峰小学校の運動会に校区が加わった、桜峰校区運動会を継続して実施する。 学校統合（R8年度）後は、全島の住民が参加する大運動会を開催する。

## ◆スローガン 私たちは助け合い安心して暮らす そしてつないでいく桜峰人をめざします

項目番号	事業名	取組み内容
11	校区防災計画のリニューアル	第1期で作成した校区防災計画を見直し、各地域ごとの防災計画を盛り込んだ計画としてリニューアルする。
12	災害時の避難誘導計画	桜島地域防災訓練を参考に、町内会長・民生委員・消防団が協力して、高齢者や身体的な弱者の情報を共有し、災害時の避難誘導体制について研究し、各公民館毎に避難計画を立てる。
13	近所声掛け運動の実践	概ね75歳以上の高齢者のみ世帯に近隣の人が定期的な声掛けを実施することによる高齢者の安全確保を図るシステム作りを進める。
14	校区敬老会の必要性の検討	各公民館で毎年実施している敬老会行事について、校区での開催が必要かどうかについて検討する。
15	校区七草祝いの実施	校区内の七草対象児に呼びかけ、神社で合同七草祝いを開催する。
16	校区伝統芸能の継承と伝統行事の創設	松浦地域の棒踊り保存会の継承及び各公民館で実施していた伝統行事の復活や新たな伝統となる行事等の創設に取り組む。
17	校区公民館の調理室等の活用	調理室やボイラー施設など特有の校区公民館の施設をこれまでの参加者を中心に年間通した講座を開設し、新たな利用者、指導者を育成する。 また、空き室等で定期的なフリーマーケットなどを開催し、校区民が集まる施設をめざす。
18	高齢者クラブ等の組織作り	高齢化社会を反映して、高齢者層がコミュニティ活動に参画してもらうために、地域のいきいきサロンやお達者クラブ等を加えることなど高齢者クラブ等の組織作りの支援に取り組む。 また、旧態の老人クラブとの違いなどを広報していく必要がある。
19	火山に関する学習講演会の開催	桜島の噴火の歴史や現在の活動状態、避難に関する防災学習講座を継続して開催する。

## ◆スローガン 私たちは助け合い安心して暮らす そしてつないでいく桜峰人をめざします

項目番号	事業名	取組み内容
20	フェリーの車両航送料の助成制度の要望	フェリー回数券の割賦販売をさらに購入しやすい方法を検討しながら取り組む。
21	成人学級の拡充	桜峰小学校おやじの会「マグマレンジャー」の活動を成人学級として講座を開催している。さらに、新たな個人、団体を対象とした成人学級の講座の開設をめざす。
22	女性学級の充実発展	活動が充実してきている女性学級をさらに受講生を拡大し、講座の内容の充実を図りながら継続する。
23	青少年を育む活動の創設	少子化の中で減少傾向にある青少年が学校外で連携できるイベント等の創設に他のコミュ協などとの協力も視野に入れて取り組む。
24	校区文化祭の開催	平成28年度に創設した校区文化祭を継続して開催する。
25	ふれあいグラウンドゴルフ大会の開催	桜洲校区コミュニティ協議会と合同で実施してきた高齢者を対象としたグラウンドゴルフ大会を参加チーム数の増加をめざしながら開催する。 また、将来的には島内全コミュ協での合同開催も検討する。
26	情報誌の発行	コミュニティ協議会の情報誌「桜峰校区コミュニティ通信」を月刊通信として発行する
27	SNSの運用	フェイスブックでの定期的、かつ充実した広報を行う。
28	校区一斉清掃	ランニング桜島が開催される日に合わせて実施する